

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	尊厳の維持、自立の支援を目標としながら、認知症の方の生活が安心して送れるように理念を大切にしている。		
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	業務の中でも理念が確認出来るように事務所に貼り出している。理念をケアの根底と捉えて、カンファレンスや日々の中で話し合っている		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	誰でも見ることが出来るように、フロア内に掲示している。また、運営推進会議では活動の報告をしている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	避難訓練や花火大会、餅つきなどの行事で参加を募り、参加をして頂いている。また、日々の散歩やお会いした際には、挨拶を交わしている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に入り、ゴミ拾い等の活動に参加している。回覧板のやり取りなどで近隣の方に接する機会がある。また、こども110番を掲示し何かあったときにはかけこみ寺になるようにしている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ホーム内での行事に参加してもらえるように働きかけ、交流を図るとともに、見学や相談にはいつでも対応している。		地域の方々に認知症を知ってもらえるような集まりを開催するなど啓蒙活動を取り入れていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価は全職員に配布し記入することで、自己やケアの振り返り、見直す機会となっている。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>避難訓練などの後に運営推進会議を開催することで、現在行っているケアを知ってもらい意見や要望を募る事でサービスに迅速にいかしている。また、会議内容が一方的な内容にならない様に、参加メンバーからの助言を大切にしている。</p>	<p>2ヶ月毎の開催では家族の予定が合わないこともあり参加が少なかったため、早めに呼びかけて、ご家族の方々の参加が増えていくように参加しやすい会議を考えながら進めていく。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>参考資料や新しい情報がFAXや郵便で届くので職員と確認しケアにいかしている。また、札幌市の管理者連絡会にて制度や研修に参加し情報を得ており、分からないことがあった場合は電話や直接札幌市に書類を持っていき確認をしている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>事業所内に成年後見制度を利用されている方もいる。主に対応は管理者が行っているが、職員は制度の事を理解しながら関係者と連携を図っている。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>身体拘束・虐待とは何かを勉強会や外部研修で理解を深めている。また、日々の支援の中で言葉使いからも考えるようにし、職員一人ひとりが意識出来るように努めている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に契約書や重要事項説明書をもとに時間をかけながら丁寧に説明し理解を得られるように話し、説明が一方的にならないようにしている。契約後においても疑問点や質問等の問い合わせに随時対応し納得してもらえるように配慮をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	自分の思いを伝えることが困難な方であっても、日々の様子の中から思いを探り、また、出された意見や苦情に関しては迅速に職員で検討して改善できるように努めている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	御家族へ毎月手紙を送り、日々の様子など伝えている他、病院への受診や心身の変化は随時電話や来訪時に伝えている。金銭に関しては領収書を月をまたがないように手渡しや手紙と一緒に送り、来訪時には出納帳の確認もしてもらい報告を行っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	どなたでも意見・要望が伝えられるようにユニットの入り口前に意見箱を設置している。また、来訪時や電話などでも意見・要望があった場合も含めて、重く受け止めて職員で話し合い改善やケアに反映できるように努めている		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の申し送りや毎月の会議・カンファレンスなどで意見や提案を聞き、業務や支援に活かしている。職員が話し易い環境であるように積極的なコミュニケーションを努めている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	毎月のカンファレンスで業務の見直しを行ない、入居者の変化に応じて勤務体制を話し合い柔軟に変更しながら対応をしている。緊急時は管理職や近隣職員が迅速に対応ができるようにしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動が入居者に与える影響を理解し最小限に留めている。新しい職員も馴染みのある職員が仲を取り持ち馴染める様に配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>管理職は人材育成について勉強会や話し合いをおこなっている。事業所内・外問わずに研修になるべく多く参加が出来るように働きかけをしている。</p>	<p>職員が自分のケアについて振り返ることができるような書式を作成し、定期的に行なっていくことで見直しができるようにし向上心を持つことができるようにしていく。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>系列内の事業所で合同の勉強会を開催し事例検討などで話し合う機会がある。また、管理職は他事業所の管理職と勉強会を開き知識向上に努めている</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>フロアから離れた場所に休める部屋を作っている。管理職は職員の不安や相談にも適宜話を聞くようにし、積極的にコミュニケーションを図ることでストレスを抱えないように努めている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>担当制とし責任感を持って入居者の事を考えられるようにしている。また、各職員は係りにも属し役割を持つことで、自ら考えることや行動することで向上心をもてる様にしている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居相談時から、必ず会って話をするようにしている。本人やご家族のニーズや不安を聞き取り、事業所内で話し合いを進めて様々な手段を提案し入居までに納得してもらえるようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族からの相談や話合いの機会にはゆっくりと時間をかけて聞き、不安な事や希望、思いを理解し受け止めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人やご家族との話し合いを重ねながら、主訴や不安、思い、必要なことを見極めてもっとも良い手段、支援を提案している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	不安がないように、何度でも見学や話しをする機会を設け、ユニット内の雰囲気を感じてもらい、また、職員とも顔を合わせることで少しでも馴染みの関係が築けるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々の関わりの中や仕草、表情より出来ること、出来ないこともどのようにすれば出来るのかを考えながら支援をしている。また、不安や心配事も共有ができるようにコミュニケーションを大事にするように努めている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の意見や本人へ対する思いを聞きホームからも心身の状況などを伝え、本人が楽しみのある生活が送れるように努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	来訪時には、一緒に過ごしやすいようにお茶等を用意してゆっくりと過ごせる環境作りを心掛けている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や友人の面会、手紙や電話などでも自由に交流ができるようにしている。また、ご家族や友人に年賀状を書き、今までの関係が途絶えないようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者が孤立しないように関係を取り持つ関わり、今までの生活を考えて会話や得意なことができるように支援をしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者が新しい環境で今までの生活ができるだけ継続できる様に、生活習慣や既往歴など必要な情報を伝えている。また、生活をともにした理解者として入院中は面会に行き、また、退去後も必要時に相談にのっている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりとの信頼関係を大切にコミュニケーションの中から本人の思いや、家族の意向も反映しながら状況を把握している。毎月のモニタリングやカンファレンスで職員で話し合いながら日々の変化にも対応できるようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族より随時情報を得られるように働きかけ、必要に応じて医療機関やサービス機関からも情報を得ている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	目安となる食事の時間などはあるが、その時々入居者の状態やそれまでの生活をj考えて、その時にあった生活を送ってもらえるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎日関わる中で、気持ちや身体の変化や毎月のモニタリング、必要時のアセスメントから本人の希望を感じ家族の要望・意向を統合しながら毎月のカンファレンス等で職員間で話し合いながらケアプランを作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医療機関と24時間連絡がとれるような体制で週2回、医師による訪問診療もあり随時相談をしている。また、本人や家族の希望時には、利用前にかかっていた病院への受診や送迎を行っている。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>心身の変化で必要時に専門病院へ通院・受診をしている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>訪問診療時に医師や看護師に相談をしている。また、健康管理記録を活用し、情報を共有している。他にも、体調の変化など必要時にもすぐに電話で相談し迅速な対応がとれるような体制になっている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>病気・病状を医療機関と密に連絡をとりながら情報を把握し、ご家族とも相談しながら早期退院にむけて働きかけを行なっている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時や状態に応じて本人・ご家族から希望を確認している。また、受診の際には本人やご家族の意向を医師に伝え、医師の意向を家族に伝え仲介役としても行なっている。適宜、ムンテラも行ない、今後について話し合いの機会を設けている</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>契約時に終末期について話をする。また、状態の変化に応じて医師やご家族と十分に話し合いを続けていながら方向性を決定している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人にとって安心ができる環境を考えて、継続していけるように事前にご家族や本人などと話し合いを行ない、新たな場所でもすぐに馴染めるように日常生活の様子や本人の意向、嗜好品、生活リズムなどを伝えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	本人の情報が記載している文章の取り扱いには十分に注意をする他、名前が記載されている物を捨てる時にはシュレッターを使っている。また、尊厳についても念頭に置き、言葉使いや態度にも注意をしている。また、記録などの文章でも表現方法に配慮をしている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	どのような時にでも本人意思や主訴を大切にしている。また、その表現が難しい方であっても表情や仕草などで把握できるように工夫をし関わるように努めている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	今までの生活背景や希望の確認で自由に過ごせるように支援を行っている。また、何が行いたいのか、趣味や好む事を把握しながら支援をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人と一緒に毎日の洋服を選び、又、希望に応じて理・美容へ一緒に行っている。行けない方にも訪問での理・美容を利用し、その人らしさを保てるように支援をしている。。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	彩り良い盛り付けや味付けなど、利用者とともに一緒に行ない、食事や楽しくなるように会話を大切にして食事に関する作業を一緒に行なっている。また、職員が献立を作る時には、利用者の希望を取り入れながら行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	皆で食べるおやつは食べたい物や季節に応じた物を一緒に考えている。また、飲み物も選択肢を用意して選んでもらい希望に沿って提供している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している。	排泄表を基に排泄のパターンを把握し、訴える事ができない方でも本人の表情やしぐさから声を掛けて誘導している。また、本人の状態に合わせて、おむつの種類を検討し、対応をしている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員が一方的に決めるのではなく、本人に入浴時間の希望や、気分・体調を考慮して入浴してもらっている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	できるだけ日中に活動を取り入れ、夜間の安眠に繋がるよう働きかけ、日常生活に支障がない範囲で入床・起床は本人に任せている。本人では判断できない方は様子をみながら行っている。また、個々に合わせて休息も取り入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	趣味や得意なことを把握し発揮できるように支援している。生活の中でも家事作業や植木の管理などで役割を持ってもらっている。一人ひとり何が出来るか、したいのかを考えて具現化できるように努めている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭は事務所内で保管させてもらい、必要時に使用している。また、一緒に買い物へ行き本人の希望する品を選ぶ機会を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や、買い物などで本人の希望に沿って行なっている。また、近隣の公園へ日光浴をしたり、長時間の外出が難しい方にはベランダに出て季節を感じれるようにしている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	動物園や紅葉見学、外食など職員の企画する外出を行なっている。また、その際にはご家族にも参加の希望を募っている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望があれば自由に電話を使用してもらっている。手紙についてもできないことを支援しながら行なっている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間に決まりはない。自由にいつでも来てもらえる環境の中でゆっくりと過ごしてもらえるように心掛けている。家族に年賀状を出したり、自分では書くことが難しい方には、本人の希望を聞きながら代筆などを行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束が入居者へ及ぼす影響や尊厳から理解している。また、勉強会や外部研修の機会を設けて、意識することを欠かさずにし、研修で得た知識は伝達講習会を開催し職員に伝えて職員全体で意識を持ち知識向上に努めている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関の施錠は行っていない。随時、所在の確認を行いながら状況に合わせて見守りや付き添いを行ない、外に出たいと希望があった際には否定するのではなく、付き添っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	事故がないように安否確認を行なうように努めている。自室で過ごされる方も飲み物を用意するなど工夫をしながら訪室し、こまめに確認をしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ハサミや針、包丁を使うことがあるが、一緒に作業を行い、危険を考えて事故のないように努め、活動を制限しないようにしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	入居者、個々の様々な状況や変化を考えながら、危険を察知し防ぐ努力を職員で考えながら行なっている。また、勉強会や避難訓練を定期的に行ない事故防止に努めながら意識を常に持つようになっている。また、事故が起きたときには事故報告書を作っており、その日にミニカンファレンスを行ない、職員で話し合いその時の入居者の気持ちを考えたり今後の対応策などを検討している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	入居者の急変に対しては協力医療機関の医師に指示を仰いだり、緊急時対応マニュアルを活用しながら迅速な対応を行なっている。また、消防などの外部より救命講習指導を職員で受けている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練や消火訓練訓練を消防署の協力もあり実施している。また、職員の緊急連絡網を活用した訓練を実施している。訓練時には、近隣の方々にも参加を募り協力が得られるように働きかけている。運営推進会議でも町内会の方々にも報告し町内会でも協力が得られるような話掛けを行なっている。		避難訓練時にできるだけ近隣の方にも参加してもらえるように、行事に参加してもらった時にも声をかけ協力をお願いしていく。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	本人の様子や状況を来訪時や手紙、電話で報告しながら、調理や自分での洗濯など生活や活動上のことや認知症での行動障害など様々なリスクを考えてご家族と話し合いながら対応を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	午前午後と必要時にバイタル測定を行ない提携医療機関へFAXで伝えている。迅速な対応を心がけ、顔色や発熱、便秘などの体調変化に注意して職員間で情報を共有し、医師や看護師とも相談をしながら対応を図っている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服の管理は職員が行ない、受診時や内服セット、訪問診療時などを通じて目的や副作用などを把握している。変更があった際にはなぜ変更になったのかを職員が理解した上で入居者に勧めている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	必要な方には下剤を服用してもらっているが、水分量の把握や牛乳などの乳製品を提供している。また、体を動かすことの大切さを意識し、日課として運動を取り入れて予防ができるように働きかけている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	入居者にの状態に合わせて毎食後に声を掛けて見守りを行ないながら、出来ることは行なってもらい、出来ない事を見極めて支援を行っている。夜間は義歯を預かり洗浄液で消毒をおこなっている。また、年に1回無料の歯科検診を受け、口腔内の清潔や異常がないか確認をしている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者個々の食事摂取量を生活習慣や病気などから把握し、栄養士による献立を勧めている。食事が進まない方でも彩りや盛り付けなども工夫しながら、雰囲気や環境から考え食べてもらえるようにしている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者と職員は、インフルエンザの予防接種を受けている。また、感染予防マニュアルがあり、職員は情報を共有している。緑茶でのうがいやマスクの着用、手洗いを節目毎に必ず職員も行なうようにし、日中・夜間ともに塩素系の消毒液でテーブルや椅子、手摺など拭いて消毒をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は冷蔵・冷凍庫で管理している。調理前の手洗いやうがいを徹底し、台布巾や食器拭きを1度使用したら、塩素系の消毒液で消毒している。包丁などの器具についても1度使用で消毒し、夜間帯にもまとめて消毒をおこなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	季節の飾り付けや職員の手作りの表札で親しみやすく入り易い雰囲気を心がけている。スロープやロードヒーティング、自動的に点く照明もありどのような方でも入りやすい環境である。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間には入居者の作った作品を飾り、飾る際も一緒に考えて、皆で一緒に住んでいる場所として家庭的な雰囲気を大切にしている。また、トイレは共有空間から少し離れた場所にあり、日差しが強いときにはレースのカーテンを使用し調整をしている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間では思い思いに自由に過ごせるように過度に関わり過ぎないように見守りを行ない、自然な雰囲気の中で過ごしてもらっている。また、廊下の端にはゆっくりと寛げるソファがあり、気軽に利用され過ごされている。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自室の家具は入居前に使用していた物を持ってきてもらうようにし馴染みの物の中で生活を送っている。また、思い思いに写真などで飾り付けをしてもらい、それぞれの居心地良さを考えている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	湿度、温度計が居室や居間にあり、確認を行いながら空気の入換えや暖房の調整、加湿器の使用を行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーで手すりは廊下、階段、トイレ、浴室など各場所にあり安全に配慮しながら、歩行時などで自立できるような環境となっている。洗面所毎に、使い方や機能が異なる物を設置し、洗面台も車椅子や麻痺のある方でも使用ができるようになっている。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者が理解できることを個々で考えながら、トイレを照らすスポットライトや案内板を活用し、必要な方には居室の電灯を点けたりするなどの工夫をしている。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭には畑があり、入居者、職員が一緒となって野菜などを作っている。また、落ち葉や木々を観て季節感を感じる場としても活用している。		

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない 日々の関わりの中で会話や表情、仕草から思いを感じて希望に添えるように努めている。
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 会話を大切に考えて、様々な場面でゆったりと過ごすように努めている
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない 本人の希望を確認し、食事や睡眠なども可能な限りそれぞれのペースで生活ができるように関わるようにしている。
91 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない 本人を尊重した関わりを続け出来る喜びを感じてもらえる支援に努めている
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない 散歩や外出など希望や天候などに考慮して対応している。
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない 訪問診療や訪問看護の利用、本人の希望時には主治医にも適時受診をしている。
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない 本人の生活ペースや体調に合わせて柔軟に一日を考えながら支援を行なっている
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない 挨拶や、お茶を用意するなど話しやすい環境のもとで本人の様子を伝えるとともに、ご家族の不安や思いを確認している。

サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない	花火大会などの行事で来訪されることがあるが、定期的な来訪はあまりない。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input checked="" type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない	ホーム内での行事への参加を募りながら、積極的に地域の活動にも参加をしている。
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない	担当や係りで役割を持ち、やりがいを持ちながら働けるように勧め楽しみながら働けるように勧めている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない	表すことができない気持ちや思いであっても日々の関わりで感じ取れるように努めている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない	家族の思いや希望を確認し、また、感じながら支援に活かせるように努めている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

家庭的な環境、雰囲気の中で尊厳と自立支援を常に意識をしながら、一人ひとりが力を発揮できるような支援を心がけている。また、地域の中でグループホームが認知されるように近隣の方々には行事の参加を募り、町内会での行事には積極的に参加している。職員も勉強会や外部研修を重ねて知識の向上をはかり、事業所としても全体的にスキルアップができるように努めている。

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)